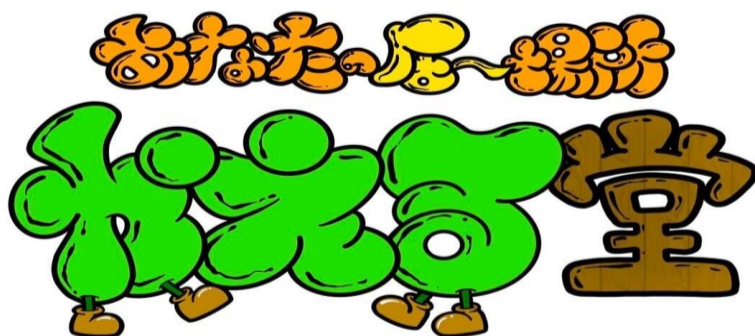


令和7年12月4日
あなたの居～場所 かえる堂
(一般社団法人フードバンクながはま)
代表：前田智博
連絡先：080-6147-2373



この度、長浜市宮前町 16-1 に、地域の多世代が混ざり合う新しい居場所「かえる堂」が誕生します。12月末にプレオープンを迎え、1月上旬より本格的にスタートします。

かえる堂は、子どもも大人も、ひとりでいたい日も誰かと過ごしたい日も、その時の自分に合わせて自然に過ごせる“第三の帰る場所”を目指して立ち上げられました。地域に根ざし、支え合いを日常の中に取り戻す拠点として、長浜に新しい文化を生み出していきます。

■「じぶんのペースで関われる」地域の新しい居場所

現代の暮らしは、“つながりたい”と“ひとりでいたい”が常にゆらいでいます。

学校にも家庭にも職場にも収まらない気持ちを抱える大人も子どもも、

誰にも気をつかわずに「今日はここにしよう」と選べる場所は、じつは多くありません。

かえる堂は、そんな“揺れ”に寄り添う場所です。

ひとりの時間がほしい日も、人恋しい日も、

静かに座っていたい日も、賑やかさに救われる日もある。

そのどれもが尊い日常であり、その全部を受けとめるのが、かえる堂の役割です。

「帰る」「変える」「買える」「還る」――

さまざまな“かえる”の意味を持つこの言葉に、

利用者が自分のペースで関わり方を選べる場所でありたいという願いが込められています。

■地域の関係性をほどこす、4つの時間帯の顔

かえる堂は、一日を通して表情を変えながら、人と人の関係性を支え続けます。

●朝：気持ちを整えるための小さな避難所

一人暮らしの高齢者、出勤前に気持ちを整えたい大人、

朝がうまくスタートできない子ども。

それぞれの日常を、温かく受けとめるモーニングの時間が広がります。

特別な会話がなくてもいい。黙って座っているだけで心が落ち着く“余白の場”です。

●昼：チャレンジする大人と、それに触れる子ども

カレーやランチ、カフェ営業に加え、

“地域の大人のチャレンジの場”としても機能します。

大人が挑戦する姿は、子どもたちにとって学びのストーリーになり、
食べることがそのまま子どもたちを支える循環にもつながっていきます。

●放課後：子どもたちが自由に戻れる“第三の帰る場所”

一番にぎわう時間帯です。

目的がなくても来ていい。お金がなくても過ごせる。

大人との距離が近すぎず遠すぎない、自然な関係が共に育っていく。

ここで育まれるのは「自分で人との距離を調整する力」。

これが、生きる上でとても大切な土台になります。

●夜：日中のにぎわいが落ち着き、語り合いが生まれる時間

駄菓子の甘い香りが少しだけ残る空間で、

大人たちがゆるくつながり、語り合い、支え合う時間が流れます。

「話したい時だけ話せばいい」という自由さが、人を軽くします。

■ “楽しい仕掛け” が支え合いを日常にする

かえる堂は楽しさと支援が自然に混ざり合う場所です。

- 子どもは毎日1回まわせる「買えるガチャ」

駄菓子や軽食につながるチケットがランダムに出て、子どものワクワクを生む。

- 大人の「換えるガチャ」

回すほど支援につながり、応援の気持ちが目に見える形で地域に循環する。

- 食事やカフェの売上が子どもに還っていく仕組み

無理なく参加でき、気負わずに地域の子どもを支えられる。

- 出店スペースやカウンターでのチャレンジ機会

“ただの利用者”ではなく、地域の一員として物語を共有できる空間に。

支援が特別な行為ではなく、

** “楽しさとセットで続けられる文化” **をつくることが、かえる堂の大事な使命です。

■ 目指す未来——地域に「戻れる文化」を根づかせる

どんな人でも、理由がなくても戻ってこれる場所がある。

そこで交わる人たちの関係性が、少しずつまち全体の空気を変えていく。

かえる堂は、地域の福祉でも教育でも子育てでもなく、

その全部の要素がゆるく混ざりあった** “まちづくりの実験場” **です。

目指すのは、

「誰もがわくわくしながら関われるまち」

「支え合いが日常の中に溶け込んだ文化」

この2つを地域の人々と一緒につくっていくこと。

かえる堂が、そのスタート地点になります